

## 太閤以外で作成されたアンケートデータを太閤データとして使用する方法

**Q**最近 Excel 太閤を使い始めたユーザーです。

アンケート集計専門のソフトだということで購入しました。使用してみるとその多機能さに大変満足しています。そこで以前のアンケートデータも太閤で再集計してみたいのですが、業者で入力してもらったデータなので、太閤形式のデータではありません。このデータをなんとか太閤で使用できないでしょうか？

**A**ある程度の変換作業は必要になりますが、以下の方法で太閤データ形式に変換することが出来ます。

変換手順は大きく4つのステップに分かれます。

以下「変換したいオリジナルデータ」→「元データ」, 「太閤データファイル」→「太閤ファイル」と呼び、説明していきます。

次ページからは、変換例を使って説明していきます。

この例の後で、例以外のデータ形式であった場合の変換方法を説明します。

ステップ1:	元データを Excel のブック形式データ(xls ファイル)に変換します。
ステップ2:	元データ内のデータ形式に合わせて太閤の項目設定をおこないます。 (1)太閤にて太閤ファイルを新規作成します。 (2)元データのアンケート内容にあわせた項目設定やカテゴリ設定をおこないます。
ステップ3:	ステップ2で作成した太閤ファイルにステップ1で変換した元データをコピーします。
ステップ4:	「ステップ3」でコピーしたデータの中には、そのままでは太閤データとして利用できないものがあります。これらを太閤のデータ加工機能で変換します。

## 【データ変換例】

変換例を使用して説明します。

### ■アンケートイメージ

問 1. あなたの好きな野球チームを全てお教え下さい(○はいくつでも) 1.巨人 2.阪神 3.中日 4.広島 5.ヤクルト 6.横浜
問 2. プロ野球で今後改善して欲しい点がありましたらお教えください。 <input type="text"/>
問 3. あなたの性別を教えてください。(○はひとつ) 1.男性 2.女性
問 4. あなたの年齢を教えてください。 <input type="text"/> 才

### ■アンケート回答データイメージファイル (カンマ区切り形式テキストファイル:10 件のデータ)

```
1,0,1,0,0,0,入場料を安くして欲しい,1,35  
0,1,0,0,0,0,最後まで TV 中継して欲しい,1,43  
0,0,0,0,0,1,,2,38  
0,1,0,1,0,0,試合時間を短くして欲しい,2,25  
0,0,0,0,1,0,球場の椅子が狭い,1,23  
0,0,1,0,0,0,大型スクリーンを増やして欲しい,2,28  
1,0,0,0,0,0,TV 放送試合を多くして,1,35  
0,0,0,0,0,1,TV 解説が面白くない,2,23  
0,1,0,0,0,0,試合のテンポを早くして,1,45  
0,0,0,0,0,0,地方での試合を増やして,2,24
```

このデータを InputData.txt としてファイル保存したと仮定します。

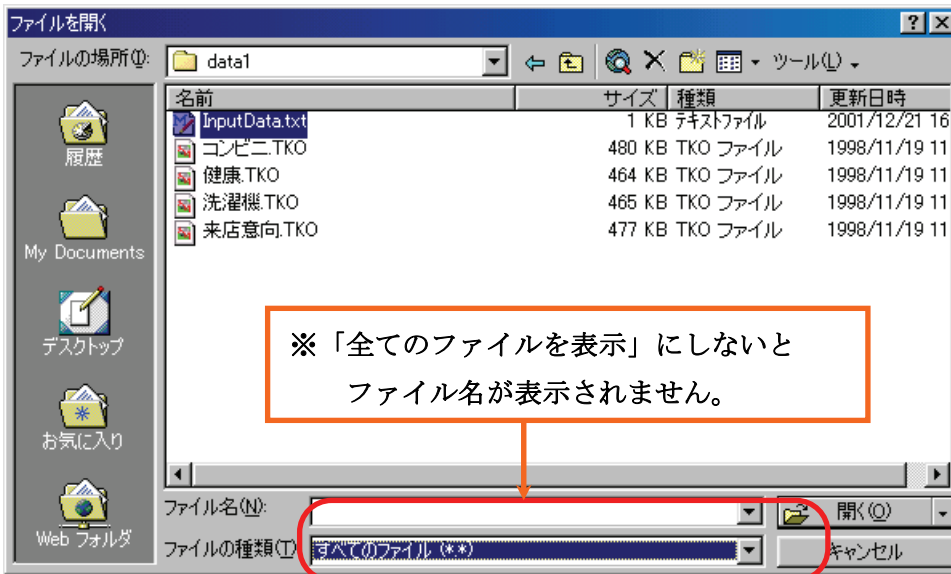
### ■太閤のデータ格納形式

単数回答(SA)形式	1 セルの中に、選択された選択肢(カテゴリ)の番号を格納します。 選択肢(カテゴリ)番号は 1~250 までの連続した整数です。0(ゼロ)は使用しません。A,B,C などの数字以外の文字は使用できません。
複数回答(MA)形式	1 セルの中に、””内に、選択肢(カテゴリ)番号をカンマ区切りで指定します。選択肢(カテゴリ)番号は 1~75 までの連続した整数です。A,B,C などの文字は使用できません。 【例】“1,2,5”
数量回答形式	1 セルの中に、選択された数値を直接格納します。
文字回答形式	1 セルの中に、文字や文章などを直接格納します。

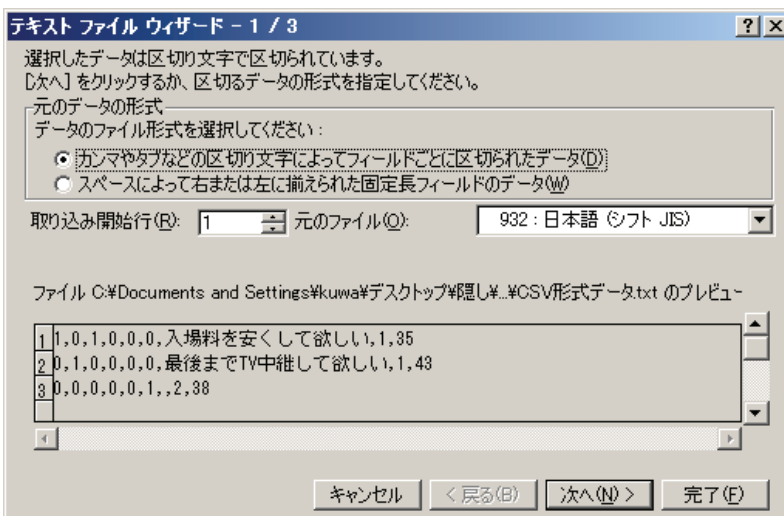
## ステップ1:元データを Excel のブック形式データ(xls ファイル)に変換します。(Excelに読み込みます)

ここでは、テキストファイルの InputData.txt ファイルを Excel のテキストウィザードを使用して Excel に読み込む手順を説明します。

- ① Excel を起動します。
- ② Excel メニューの「ファイル」「開く」を選択します。

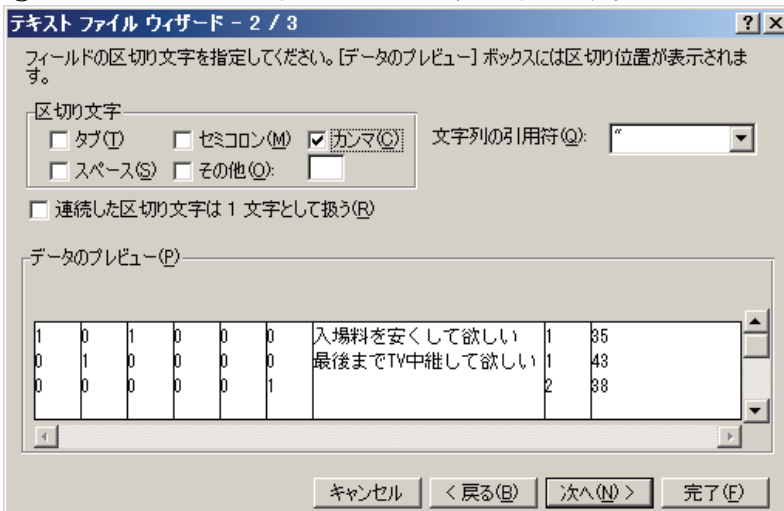


- ③ テキストファイルウィザード(1/3)が表示されます。



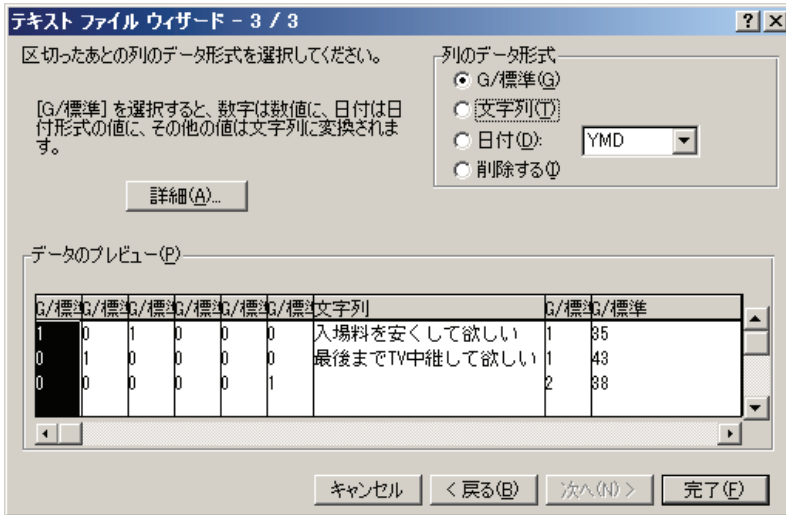
- データファイルの形式によって選択します。
- ここではカンマ区切りを選択しています。
- 選択して後で「次へ>」ボタンを押します。

- ④ テキストファイルウィザード(2/3)が表示されます。



- 「区切り文字」を選択します。
- この例ではカンマ区切りデータなので、「カンマ」を選択しています。
- 「データのプレビュー」で、正しくデータが区切られていることを確認します。
- 確認後に「次へ>」ボタンを押します。

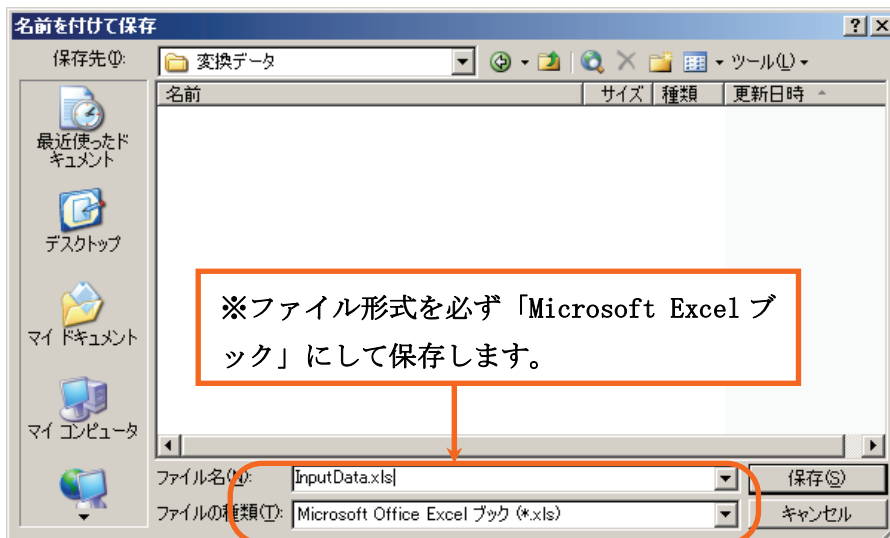
⑤ テキストファイルウィザード(3/3)が表示されます。



- 「データのプレビュー」欄で、区切られたデータごとに「列のデータ形式」を指定します。
- 通常のデータは「G/標準」ですが、文章データなどは「文字列」の指定をします。Excelによって勝手に変換されることを防ぐためです。(年月日など)
- すべての指定後に「完了」ボタンを押します。

⑥ テキストファイルウィザードを使用して取り込んだデータを保存します。

正しく Excel のシート上にデータが表示されたら、そのデータを Excel のブック形式データで保存します。Excel メニューの「ファイル」→「名前を付けて保存」を選択して、下図のようにファイルの種類を「Microsoft Excel ブック(\*.xls)」形式を選択して「保存」ボタンを押します。



⑦ これで「ステップ 1」が終了です。

Excel に読み込まれたデータイメージ

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
1	1	0	1	0	0	0	入場料を	1	35	
2	0	1	0	0	0	0	最後までT	1	43	
3	0	0	0	0	0	1		2	38	
4	0	1	0	1	0	0	試合時間	2	25	
5	0	0	0	0	1	0	球場の椅	1	23	
6	0	0	1	0	0	0	大型スク	2	28	
7	1	0	0	0	0	0	TV放送試	1	35	
8	0	0	0	0	0	1	TV解説が	2	23	
9	0	1	0	0	0	0	試合のテ	1	45	
10	0	0	0	0	0	0	地方での	2	24	
11										

問 1
問 2
問 3
問 4

## ステップ2:元データ内のデータ形式に合わせて太閤の項目設定をおこないます。

ここでは、「ステップ1」で Excel データに変換した元データを、太閤データに取り込むための準備をします。

- ① 太閤ファイルを新規作成します。  
元データを格納するための太閤ファイルを新規作成します。
  - (1) 太閤を起動します。
  - (2) 「ファイル」→「新規作成」で太閤ファイルを新規作成します。  
この例では ファイル名を「野球アンケート.TKO」として作成します。
- ② 元データのデータ形式にあわせて太閤で項目設定、カテゴリ名登録をおこないます。  
太閤では、「1 列 → 1 項目(質問)」としてデータを認識します。  
この原則に従って、仮の項目設定をおこないます。

Excel に読み込まれたデータイメージ

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
1	1	0	1	0	0	0	0	1	1	35
2	0	1	0	0	0	0	0	1	1	43
3	0	0	0	0	0	1	0	2	2	38
4	0	1	0	1	0	0	0	2	2	25
5	0	0	0	0	1	0	0	1	1	23
6	0	0	1	0	0	0	0	2	2	28
7	1	0	0	0	0	0	0	1	1	35
8	0	0	0	0	0	1	0	2	2	23
9	0	1	0	0	0	0	0	1	1	45
10	0	0	0	0	0	0	0	2	2	24
11										

「1 列 → 1 項目(質問)」なので、「9 項目」として項目設定をおこないます。

### 1 / 0 形式で登録された複数回答(MA) 形式の項目設定方法 (0 以外の数字、空白文字も可)

この例の問 1 は、「好きな野球チームをすべて回答する」という複数回答(MA)形式の質問です。

データを見ると、○が付いたチーム名に「1」を入れるデータ形式になっています。

これは、「あなたは\*\*\*チームが好きか？」という質問に「はい」→1、「いいえ」→0 と読み替えることができます。

このような考え方で、太閤の項目設定に当てはめると、単数回答(SA)形式でカテゴリ数が 2 となります。

チーム数が 6 なので、同様の質問が 6 項目になります。

この考え方に従い、項目設定/カテゴリ名登録をおこなうと、以下のような設定になります。

【項目設定】イメージ

行 No.	項目 No.	項目名	データ形式	親元項目 No.	カテゴリ数	小数点桁数	質問文
1	1	巨人	入力する	1	2	入力する	入力しない
2	2	阪神		1	2		
3	3	中日		1	2		
4	4	広島		1	2		
5	5	ヤクルト		1	2		
6	6	横浜		1	2		
7	7	改善要望		4	0		
8	8	性別		1	2		
9	9	年齢		3	0		
10							

【カテゴリ設定】イメージ 項目 1~6(問 1)

カテゴリ No.	カテゴリ名	質問文
1	好き	
2	嫌い	

項目 8(問 3)

カテゴリ No.	カテゴリ名	質問文
1	男性	
2	女性	

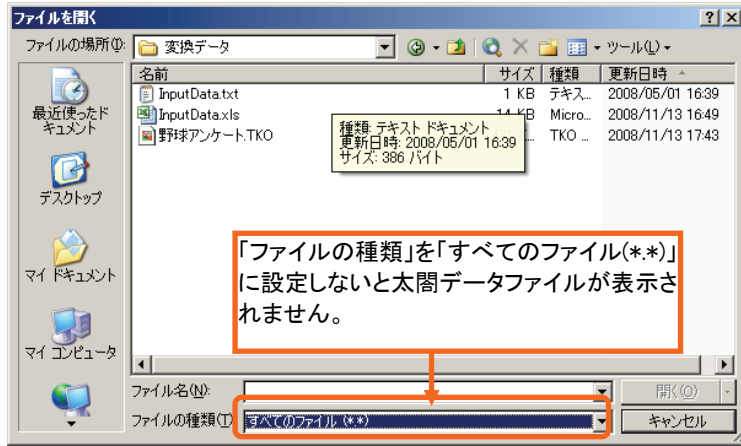
### ③ 太閤を終了します

項目設定、カテゴリ名登録が終了したら、作成した太閤データを保存し、太閤を終了します。

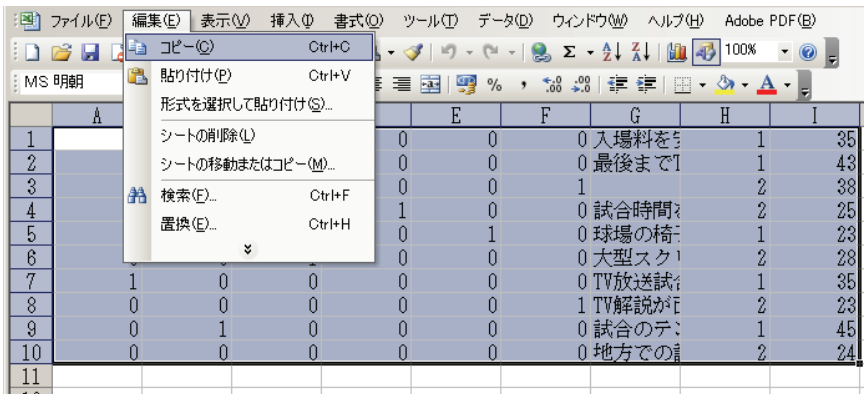
これでステップ2は完了です。

**ステップ3: ステップ2で作成した太閤ファイルにステップ1で変換した元データをコピーします。**

- ① Excel を起動します。(太閤ではなくExcelのみ起動します)
- ② ステップ2で作成した太閤ファイルとステップ1で作成した元データをExcelに読みこみます。  
 ここでは読み込むファイル名を  
 変換データファイル名 →「InputData.xls」  
 太閤ファイル名 →「野球アンケート.tko」  
 とします。



- ③ 置換した「InputData.xls」のデータ範囲をコピーして、太閤ファイル「野球アンケート.tko」のデータエリアにアンケートデータをコピーします。  
 (1) 「InputData.xls」のデータ範囲をコピーします。(ここでは A1~I10 の範囲)



- (2) 「野球アンケート.tko」の「原データ 11」シートを表示します。このシートの B3 セルをマウスで左クリックします。(図のように B3 セルが太枠で囲まれます)

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
1		1	2	3	4	5	6	7	8	9
2	=row()-2	巨人	阪神	中日	広島	ヤクルト	横浜	改善要望	性別	年齢
3	=row()-2									
4	2									
5	3									
6	4									
7	5									

- (3) Excel のメニューより「編集」→「形式を選択して貼り付け」を選択します。「形式を選択して貼り付け」ダイアログボックスが表示されますので、ダイアログ内の「貼り付け」グループから「値」を選択して「OK」ボタンを押します。すると以下のようにデータがコピーされます。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
1		1	2	3	4	5	6	7	8	9
2	=row()-2	巨人	阪神	中日	広島	ヤクルト	横浜	改善要望	性別	年齢
3	=row()-2	1	0	1	0	0	0	0	1	35
4	2	0	1	0	0	0	0	1	1	43
5	3	0	0	0	0	0	0	1	2	38
6	4	0	1	0	1	0	0	0	2	25
7	5	0	0	0	0	1	0	0	1	23
8	6	0	0	1	0	0	0	0	2	28
9	7	1	0	0	0	0	0	0	1	35
10	8	0	0	0	0	0	1	1	2	23
11	9	0	1	0	0	0	0	0	1	45
12	10	0	0	0	0	0	0	0	2	24
13										

※ 2行目の項目名と、コピーしたデータがずれていないか確認します。

(4) 次に「野球アンケート.tko」の「システム管理」シートを表示します。ここで I3 のセルに、(3)でコピーしたデータ数(この例では 10)を設定します。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
1	全体情報	9		9	7	0	1	1		
2	調査名	項目数上	回答者数	項目数(単	SA項目	MA項目	数量項目	文字項目	回答者数(実際	
3	好きな球団	508	65000	9	7	0	1			
4										
5	項目情報									
6	項目No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9
7	項目名(半	巨人	阪神	中日	広島	ヤクルト	横浜	改善要望	性別	年齢
8	形態のコ	1	1	1	1	1	1	4	1	3
9	データ形	SA	SA	SA	SA	SA	SA	文字	SA	数量

このセルに回答者数を入力します。  
この例では 10 を入力。

④ 「野球アンケート.tko」ファイルを上書き保存して、Excel を終了します。

### ステップ 4: 「ステップ 3」でコピーしたデータの中には、そのままでは太閤データとして利用できないものがあります。これらを太閤のデータ加工機能で変換します。

ここでは、項目 1~6 に単数回答(SA)として分割登録した、「問 1 好きな野球チーム」の回答を 1 つの複数回答(MA)に変換します。

- ① 太閤を起動して、ステップ 3 で作成したファイルを読み込む。  
太閤を起動して「野球アンケート.tko」ファイルを読み込みます。最初に表示される全体情報画面で、項目数・回答者数が正しく太閤に認識されているか確認します。



項目数	上限	現在数	集
SA		7	単
MA		0	ク
数量		1	数
文字		1	数
合計	508 項目	9 項目	数

項目設定の内容を確認します。

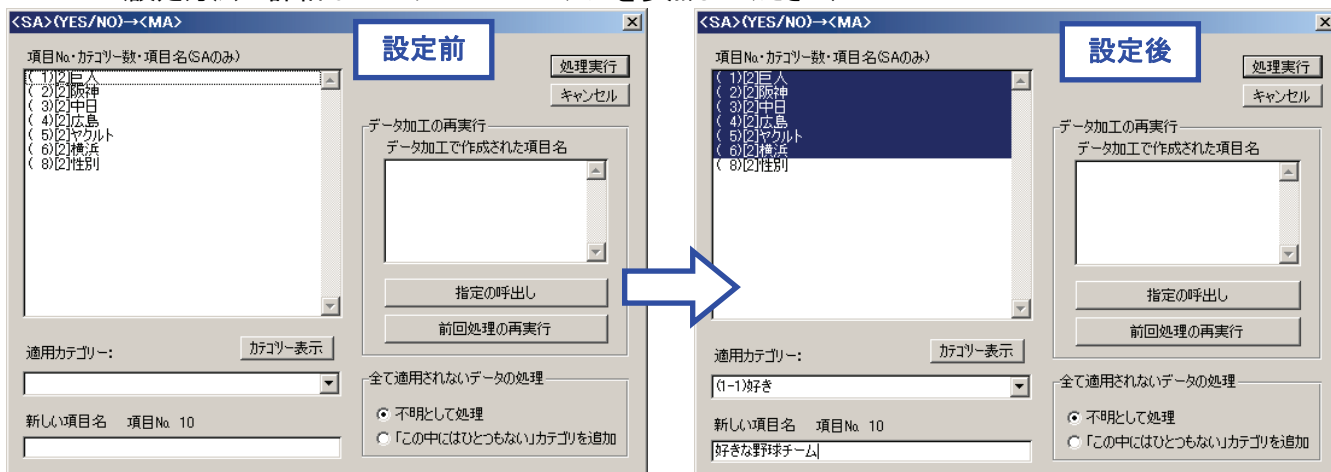
回答者数	上限	現在数	集
	65,000	10	集

回答者数を確認します

保存ファイル名 C:\DOCUMENTS AND SETTINGS\#K1

- ② 単数回答(SA)形式データから複数回答(MA)形式データの作成  
この例では複数回答(MA)を選択肢ごとに「好き」「嫌い」という 2 択の単数回答(SA)として、6 項目に分割登録しています。このまま太閤を利用しても、6 質問バラバラの単数回答としてしか集計できません。そこで、太閤のデータ加工機能[SA(Yes/No)→MA]を使用して 1 つの太閤の MA 形式へと変換します。

- (1) 太閤メニューの「データ加工」から[SA(Yes/No)→MA]を選択します。
- (2) 分割登録されている単数回答(SA)項目名を選び、適用カテゴリー、新しい項目名を設定します。  
(設定方法の詳細はユーザーズマニュアルを参照してください)



- (3) データ加工処理が終了すると、最後の項目「好きな野球チーム」という項目のMA項目が追加されます。  
(全体情報画面とカテゴリ設定を確認してください。)

項目No.・データ形態・カテゴリ数・項目名  
(10)[MA] 6好きな野球チーム

挿入 移動 削除 コピー コピー(他項目から) 登録

カテゴリNo.	カテゴリ名	質問文
1	巨人	
2	阪神	
3	中日	
4	広島	
5	ヤクルト	
6	横浜	

単数回答(SA)として登録した項目名が、複数回答(MA)のカテゴリ名として、自動的に設定されています。

- ③ 集計は統合した複数回答(MA)を使用する。  
6 個の単数回答(SA)に分割されていた質問が、ひとつの複数回答(MA)に統合されました。単純集計/クロス集計はこの統合した複数回答(MA)を使用しておこないます。



## 例以外のデータ形式の場合の処理方法

例示した形式以外の処理方法をここでステップごとに説明します。

### ステップ 1: 元データを Excel のブック形式データ(xls ファイル)に変換します。

元データを Excel のブック形式ファイルへの変更方法を説明します。

例以外の 2 形式について説明します。

1. 固定長ファイル(テキストファイル)
2. Lotus1-2-3 やアクセスのシートファイル形式データ

#### 1. 固定長ファイル(テキストファイル)

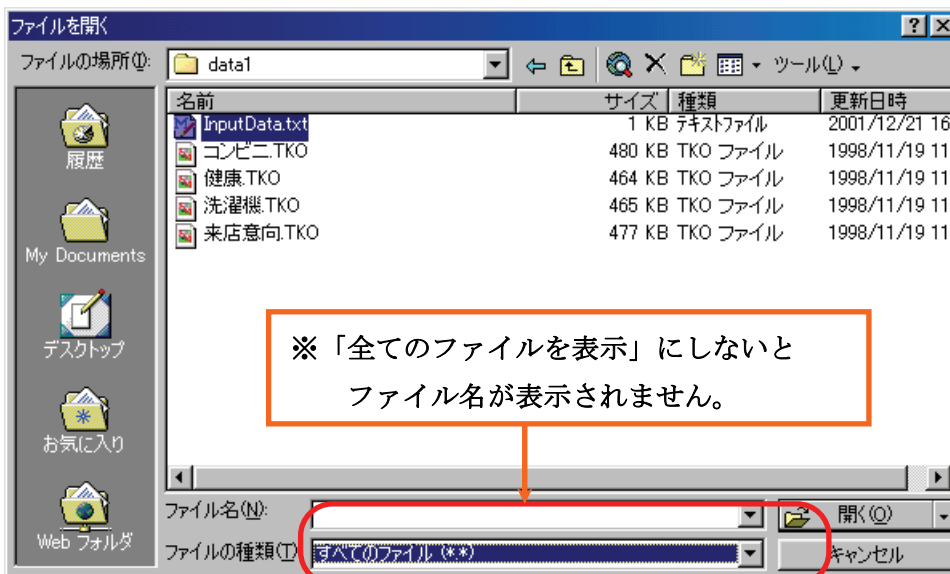
##### ① 固定長ファイルの場合

固定長ファイルとは、データの区切りがなく一定の文字数で改行されたテキストファイル。データの区切りはないが、「前から 10 文字目は性別情報」のように、文字の位置によりデータ位置は固定化されている。

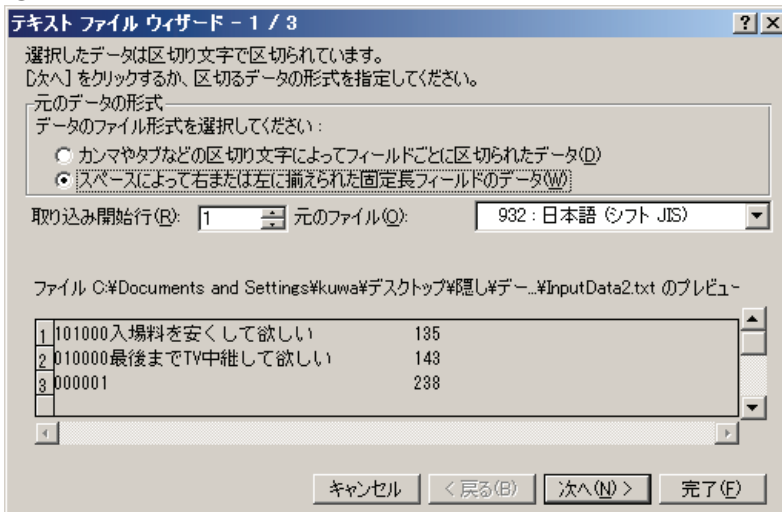
【データ例】 InputData.txt ファイルとして保存

101000 入場料を安くして欲しい	135
010000 最後まで TV 中継して欲しい	143
000001	238
010100 試合時間を短くして欲しい	225
000010 球場の椅子が狭い	123
001000 大型スクリーンを増やして欲しい	228
100000TV 放送試合を多くして	135
000001TV 解説が面白くない	223
010000 試合のテンポを早くして	145
000000 地方での試合を増やして	224

##### ② Excel メニューの「ファイル」「開く」を選択します。

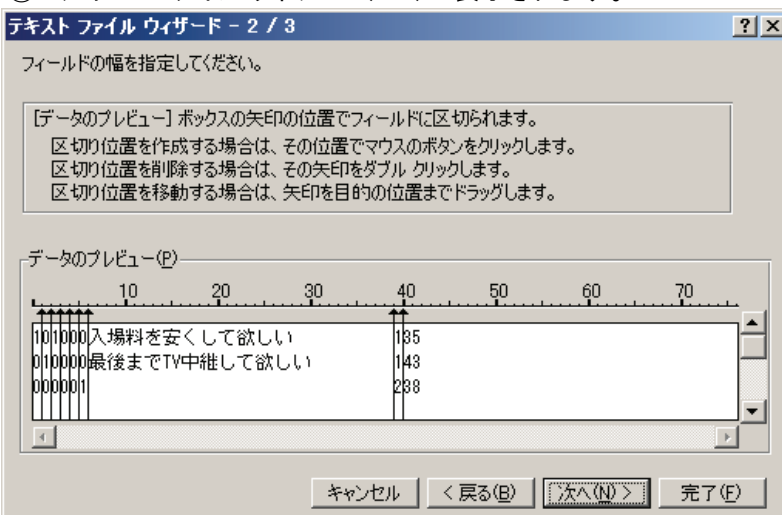


### ③ テキストファイルウィザード(1/3)が表示されます。



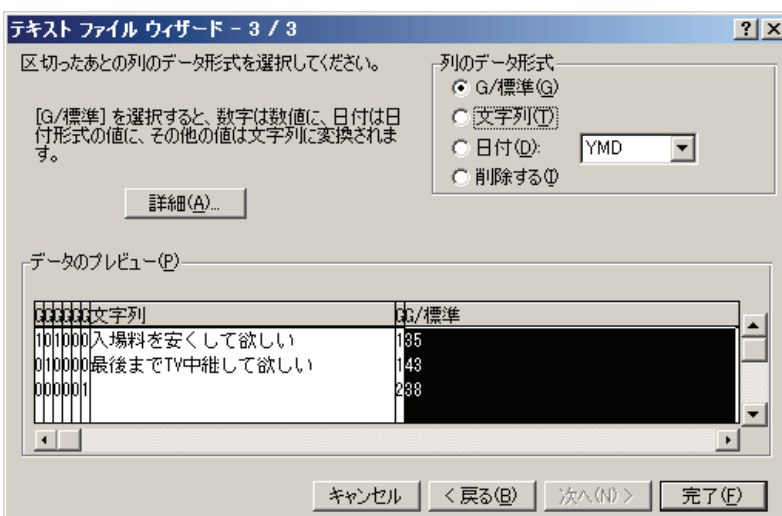
- データファイルの形式によって選択します。
- ここでは固定長を選択しています。
- 選択して後で「次へ>」ボタンを押します。

### ④ テキストファイルウィザード(2/3)が表示されます。



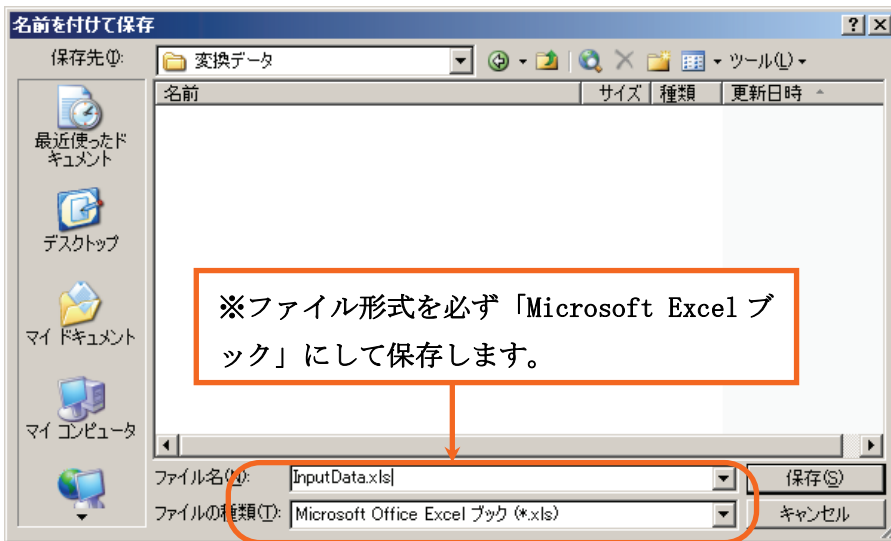
- データの区切り位置を選択します。
- 「データのプレビュー」で、正しくデータが区切られていることを確認します。
- 確認後に「次へ>」ボタンを押します。

### ⑤ テキストファイルウィザード(3/3)が表示されます。



- 「データのプレビュー」欄で、区切られたデータごとに「列のデータ形式」を指定します。
- 通常のデータは「G/標準」ですが、文章データなどは「文字列」の指定をします。Excelによって勝手に変換されることを防ぐためです。(年月日など)
- すべての指定後に「完了」ボタンを押します。

- ⑥ テキストファイルウィザードを使用して取り込んだデータを保存します。  
 正しく Excel のシート上にデータが表示されたら、そのデータを Excel のブック形式データで保存します。  
 Excel メニューの「ファイル」→「名前を付けて保存」を選択して、下図のようにファイルの種類を「Microsoft Excel ブック(\*.xls)」形式を選択して「保存」ボタンを押します。



- ⑦ これで「ステップ 1」が終了です。

Excel に読み込まれたデータイメージ

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
1	1	0	1	0	0	0	0	1	35	
2	0	1	0	0	0	0	0	1	43	
3	0	0	0	0	0	1	0	2	38	
4	0	1	0	1	0	0	0	2	25	
5	0	0	0	0	1	0	0	1	23	
6	0	0	1	0	0	0	0	2	28	
7	1	0	0	0	0	0	0	1	35	
8	0	0	0	0	0	1	0	2	23	
9	0	1	0	0	0	0	0	1	45	
10	0	0	0	0	0	0	0	2	24	
11										

問 1
問 2
問 3
問 4

## 2. Lotus1-2-3 やアクセスのシートファイル形式データ

Lotus1-2-3 やアクセスなどの代表的なソフトは、Excel 自身が変換ツールを内蔵しているので、読み込み時に自動変換されます。

### 【データ例】

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T	U
1	4	4	1	2	3	2	3	3	3	3	2	3	4	1	2	3	4	4	8	2	5
2	3	3	4	1	2	4	5	6	2	2	3	3	3	4	1	2	3	4	4	5	5
3	4	4	1	2	3	2	3	3	3	3	2	3	4	1	2	3	4	4	8	2	

### 【読み込み方法】

- ① Excel メニューの「ファイル」→「開く」で「ファイルを開く」ダイアログを表示します。
- ② ダイアログ内の「ファイルの種類」から、「Lotus 1-2-3 ファイル」「Access データベース」等のファイル形式を選択します。
- ③ 「ファイルを開く」ダイアログ内のファイル一覧に読み込みたいファイル名が表示されるので、変換したいファイル名を選択し「開く」ボタンを押します。
- ④ Excel シート上にデータが読み込まれます。
- ⑤ Excel シート上にデータが読み込まれましたら Excel 形式でデータを保存します。

※ テキストファイルとは、Windows 標準のアプリケーションソフト「メモ帳」などで見る(内容を参照する)事の出来るデータ形式です。この例では①②がこれに該当します。

**ステップ 2: 元データ内のデータ形式に合わせて太閤の項目設定をおこないます。**

太閤では複数回答(MA)について、データの格納方法が特殊です。複数回答(MA)形式のデータ変換方法をいくつか紹介いたします。

**【MA質問例】**

問 1. あなたの好きな野球チームを全てお教え下さい  
 1.巨人 2.阪神 3.中日 4.広島 5.ヤクルト 6. 横浜

3人の回答結果

No1	1.巨人	2.阪神	3.中日	4.広島	5.ヤクルト	6.横浜
No2	1.巨人	2.阪神	3.中日	4.広島	5.ヤクルト	6.横浜
No3	1.巨人	2.阪神	3.中日	4.広島	5.ヤクルト	6.横浜

**MA回答のデータ登録方法の主な方法。**

1. Lotus やアクセスなどの表形式データで、ひとつのセル内に複数のカテゴリ番号をカンマ区切りで入力しているもの。(“”が付いていないもの)
2. 回答のあった番号を入力していく方法。(回答数が決められていて、指定された回答欄にカテゴリ番号を記入している方法)

**1. Lotus やアクセスなどの表形式データで、ひとつのセル内に複数のカテゴリ番号をカンマ区切りで入力しているもの。**

「MA質問例」を入力した場合の元データ

No	問1
1	1,4
2	2
3	3,5,6

**項目設定例**

項目 No	項目名	データ形態	カテゴリ数
1	問 1	MA	6

**カテゴリ設定例**

カテゴリ No	カテゴリ名
1	巨人
2	阪神
3	中日
4	広島
5	ヤクルト
6	横浜

- ① 既に太閤とほとんど同じ形式で入力されているためにそのままMAデータとして登録します。
- ② 太閤にデータを取り込んだ後で、太閤メニューの「データチェック」にある「エラーデータのチェック」をおこなう。
- ③ 太閤形式のデータに自動変換されます。(ダブルクォーテーション””が付加されます。)

元データ		太閤でデータ チェックする		修正後
No	問1		⇒	問1
1	1,4			“1,4”
2	2			“2”
3	3,5,6			“3,5,6”

2..回答数が決められていて、指定された回答欄にカテゴリ番号を記入している場合  
(解答欄が6ある場合)

「MA質問例」を入力した場合の元データ

No	回答欄 1	回答欄 2	回答欄 3	回答欄 4	回答欄 5	回答欄 6
1	1	4				
2	2					
3	3	5	6			

太閤での項目設定方法

項目 No	項目名	データ形態	カテゴリ数
1	回答欄 1	SA	6
2	回答欄 2	SA	6
3	回答欄 3	SA	6
4	回答欄 4	SA	6
5	回答欄 5	SA	6
6	回答欄 6	SA	6

太閤でのカテゴリ設定

カテゴリ No	カテゴリ名
1	巨人
2	阪神
3	中日
4	広島
5	ヤクルト
6	横浜

※ 項目番号 1~6 ともカテゴリ設定内容は同一

- ① SA の 6 カテゴリとして、解答欄がある数だけ項目設定します。(この例では 6)
- ② 太閤にデータを取り込んだ後で、太閤メニューの「データ加工」メニューにある「5.[SA,MA→MAの積み上げ]をおこなう。
- ③ 太閤形式のデータに自動変換されます。

元データ

No	回答欄 1	回答欄 2	回答欄 3	回答欄 4	回答欄 5	回答欄 6
1	1	4				
2	2					
3	3	5	6			

データ加工をする  
⇒

変換後

問1
“1,4”
“2”
“3,5,6”